

サルサダンス教室 LABOMBA における身体操作感覚構築のための指導法事例報告

Case report of teaching method for the perception of physical manipulation at the salsa dance studio LA BOMBA

1K06A602

指導教員 主査 土屋純先生

紀平まこも

副査 中村千秋先生

【背景および目的】

サルサダンスはリーダー、フォロワーに役割分担された通常男女のペアがサルサ音楽にあわせて即興で踊るパートナーダンスである。基本ステップは存在するが即興であるがゆえ決められた振り付けを行うのではなく、リーダー（通常男性）がフォロワー（通常女性）をリードすることによって成立する。コンペティションなど特定の場を除いては決まったパートナーを持たないダンスであるため、事前練習ができない。例えば、技の構成やパートナーの技術レベル、体格等が毎回異なってくる。そのような情報の少ない状況で、安全かつ美しく確実に踊るためのリードおよびフォローのためには、達成しようとする技術の核を理解し、正しい身体操作感覚を身につけることが重要である。

本論文では、単に技の構成にとどまらず身体操作感覚までを学習者に指導するサルサダンス教室 LA BOMBA における指導法の代表的な事例を報告する。

【方法および記述】

サルサダンスのパートナーワークにおける代表的ないくつかのパターンにおいて、1) 技術名、2) 動作表記、3) 連続写真および文章表記による技術局面の解説、4) 実際の指導現場での指導法、5) 主要局面でのスポーツ解剖学および運動力学的解説、6) 不成功試技を引き起こしやすい動作事例、7) 正しいリードとフォローのための身体操作感覚作りの実践事例を

用いて事例報告とする。本論文で報告する指導の対象は、サルサを特定する動作は理解しているものの、それらの技術の完成度が十分でない学習者とした。

【結果および考察】

学習者が正しく技術を習得するためには、『その技術の核となる身体操作は何か』を正しく見極め、『イメージ通りに身体操作を再現できること』が重要である。それらのために、ただ単にルーティーンのデザインを説明するのではなく、1. 技の構成を理解する、2. 見た目の動きと実際の身体操作やそれから発する運動が同じかどうかを見極める、3. 自分のイメージ通りに身体操作が行えているかを検証する、という点に着目し、核となる身体操作の本質を見極め、学習者がイメージ通りの身体操作を実現できるアプローチが必要と考える。

【結論】

本論文は筆者が現場で指導していることの要約である。本論文を構築するにあたり「実践している指導」の意味を再確認し系統立てて記述することにより、指導の本質が詳細にわたり明確になった。筆者が漠然と感じていたことがより具象化され、指導のポイントやそれに伴い必要とされる基礎体力の要素等も明確になった。これらのことを踏まえ、さらなる指導スキルを高めるとともに人の動作における普遍的な要素を抽出し、今後サルサ以外のスポーツ等におけ

る身体操作の感覚構築に応用したい。

【参考文献】

Clem W. Thompson, and R. T. Floyd (著), 中村千秋 (翻訳)、竹内真希 (翻訳) 『身体運動の機能解剖 改訂版』医道の日本社、2006 年
他